

八木代表・前回 (2009年度～2012年度) 活動実績

1. 2009年度

1. 1 概要

2009年は省エネグループの活動の転換の年であった。リーダーの鈴木壮一さんがご病気のため途中からリーダー代行を八木がすることになった。今年度から第12期地域環境リーダー育成講座の修了者や市民アカデミー環境とみどりの受講者から8名の入会者があり、全員で31名となった。

活動を効率化するため初めて班分け(チーム)をして組織化する案を8月の定例会で提案し、10月の定例会で決定した。

夏休みエコライフ・チャレンジを行う夏エコチーム(チームリーダー好川さん・その後酒井さん)、出前授業・イベント対応をする出前授業・イベントチーム(チームリーダー八木)、チームの方向の検討やスキルアップを図るため企画チーム(チームリーダー友政さん)、チームの活動をホームページやポスター等で知らせる広報チーム(チームリーダー笹子さん・その後松下さん)、の4チームのほかにエコ座(チームリーダー二見さん)も省エネグループに属していた。

その後、新しく加わったエコたのしみ隊のメンバーと出前授業・イベントチームが合体し、新しくエコたのしみ隊(チームリーダー水谷さん)となった。

1. 2 夏エコ・家族みんなでCO2削減チャレンジ

夏休みエコライフ・チャレンジ(夏エコ)の実施を当グループの最重要活動と位置づけ、5年間にわたり毎年行ってきた。しかし参加者は年々減少の一途をたどってきている。その原因についてヒアリングし、グループ内に夏エコ検討チームを作り討議をした。その結果小学校全校に配布するのは膨大な無駄であることや、学校との接触の方法、内容のマンネリ化の打破等をして「われわれは何をしたいのか」という狙いを明確にし、これまで実施してきた内容を反省し、より効果的な活動となるよう工夫して、継続していく事になった。具体的には、今まで川崎市内の全小学校に配布していた方式をやめて、アンケート調査を行い夏エコに参加してくれる意思のある学校に対し、直接コミュニケーションをとりながら新しい活動を構築していくことにした。詳細な方法は新たに夏エコ検討チームを作り進めていくことになった。

家族族みんなでCO2削減チャレンジは25件の返信数があり電球型蛍光灯15個、エコグッツ引換券10枚発送した。

しかしインセンティブを付けたにもかかわらず取り組んでくれる家族も少ないため、「来年度は家族で取組むCO2削減チャレンジは実施しないこととし、夏エコの取組みの中に家庭で省エネ活動に取り組む工夫を加える。」という提案がなされ、来年度は実施しないことに決定した。

1. 3 出前授業

省エネグループ出前授業は中原区緑のカーテン楽習会と多摩区中野島小学校の出前授業の2回だった。新しく地域環境リーダー育成講座修了者4人の「エコたのしみ隊」に依頼して、多摩区長尾小学校の出前授業を、省エネグループの1員として「地球温暖化とは～見て・触れて・感じて～」というプログラムで、電球の違い(白熱灯、蛍光灯、LED)によるCO2の発

生量の違い等について授業を行った。この時に川崎市生涯学習財団主催の「環境学習アドバイザー養成講座」受講生が見学した。今までにないわかりやすい授業ができたので、これを機会に省エネグループの中で活動してもらう事になった。

1. 4イベント

市内各所で行われたイベントに参加し参加し地球温暖化防止・省エネルギーの普及、啓発活動をした。エコ座の活動も省エネグループの中で行っていたため、その活動も含めて11回に及んだ。その内容は次の通り

項目	日時	場所	実施内容
富士通春祭り	4月5日	中原区	パネル・手廻し発電機・エコ座紙芝居
かながわ国際交流祭り	4月29日	横浜	エコ座紙芝居
江戸川大学環境講座	5月8日	東京	川崎の紹介とエコ座紙芝居
インターナショナルフェスティバル	7月6日	中原区	パネル・手廻し発電機・エコ座紙芝居
太陽と遊ぼう	7月26日	高津区	パネル・手廻し発電機・エコ座紙芝居
生田緑地サマーミュージアム	8月1日	多摩区	パネル・手廻し発電機・エコ座紙芝居
環境の広場展	8月5日	川崎区	エコ座紙芝居
たまたま子育てまつり	9月20日	多摩区	エコ座紙芝居
川崎国際環境技術展	2月4・5日	中原区	パネル・手廻し発電機・
12期環境学習アドバイザー育成講座	9月5日		省エネグループ紹介
環境学習リーダー養成講座	10月29日	中原区	省エネグループ紹介・出前講座の内容を行う (地球温暖化について・手廻し発電機・エコ座紙芝居)

1. 5その他

そのほかの活動や行事への参加を挙げると、・第12期地域環境リーダー育成講座での活動紹介と勧誘、

- ・エコちゃんずカードプロジェクトへの参加、・川崎市地球温暖化対策推進計画検討市民合同会議への参加、
- ・市民部会連絡調整会議、・アクト川崎理事会へ参加した。
- ・広報のためのホームページをリニューアルした。

尚、毎月1回定例会を開催し、当面の課題について意見交換をし、集約するとともに会員相互の親睦を深め意思の疎通を図っていて継続している。

2. 2010年度

2. 1概要

2010年はメンバーが増えたこともあり、夏エコ、出前授業、イベントへの参加・講座の開催等かなり活発な活動ができた。登録している会員は36名になるが、各活動に積極的に参加しているのはおよそ15名であった。またエコ座が省エネグループから独立し単独で活動することになった。

グループの活動のPRが不足しているとの意見から、

①地球温暖化防止活動大臣表彰:環境省

教育・普及啓発部門に夏休みエコライフチャレンジ・出前授業・イベントでの普及啓発活動で応募。

②神奈川地球環境賞:

かながわ地球環境保全推進会議

市民に省エネルギーの実践に取り組んでもらうように、機会をとらえてイベントの開催、小学校での出前講座の開催、「夏休みのエコライフ・チャレンジ」の継続的(6年間)な取組などの啓発活動で応募。

③低CO₂川崎パイロットブランド

(市民活動部門):川崎市

夏休みのエコライフ・チャレンジで省エネに関して市内小学校の夏休みに実施できるプログラムを考案し、毎年実施し、6年目の活動で応募。

④たかつ・エコエネライフコンクール

2010:高津区

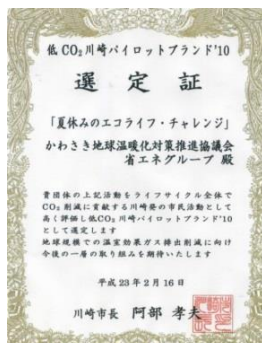
省エネの実践のためにイベントの開催、小学校での出前講座の開催、「夏休みのエコライフ・チャレンジ」の継続的(6年間)な取組で応募。

その結果②③④で受賞し、活動の

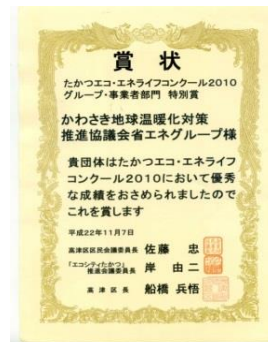
内容を広く知らせた。



②かながわ地球環境賞



③低CO₂川崎パイロットブランド



④たかつ・エコエネライフコンクール2010

2. 2夏休みエコライフ・チャレンジ

夏休みエコライフ・チャレンジの活動は小学5年生を対象にしており、初年度の児童はすでに高校1年生になっている。参加する学校や児童をさらに増やし、この活動を継続して行うことで、将来環境都市川崎を支える成人が多くなることが期待できる。

また、CO₂削減効果ばかりではなく、数字に表れない環境教育、啓発の効果が大きいものとする。保護者の感想から見ると参加した児童が熱心に取り組んだことがよくわかる。

今年から工夫した改善点は、

①夏休みエコライフ・チャレンジの継続実施の希望を問うアンケート調査を今年から行う。学校に対しては省エネグループだけでは知名度もないため、環境局と協働していることをアピールするため、連名でアンケートをすることにした。アンケートは4月に実施。

②夏休み前に実行の確認を確実にする。

③出前授業の時期を夏休み前にするよう提案して、夏休みエコライフ・チャレンジの実施をお願いする。

④実績をフェードバックし、成果が分かるように分担して訪問説明する。

⑤内容は、取組み期間を14日から10日に縮め、塗り絵方式を辞め○、×で記入にして取組みやすくした。また感想を書く欄を大きくして書きやすくした。

活動のスケジュールは

- 3月会議：夏エコチーム発足、アンケート決定
- 4月初め：全小学校へアンケート実施
- 4月末：夏エコ実施校決定
- 5月会議：夏エコ省エネカレンダー決定
- 6月：夏エコ省エネカレンダー配布
- 9月：夏エコ省エネカレンダー回収
- 10月：集計・報告書作成
- 11月～：各学校へ報告

今年度の参加校は、東大島・宮前・殿町・荻宿・東高津・橘・土橋・久地・南菅・東生田の10校となった。

2. 3 出前授業

出前授業は市内各小学校に市民部会として、夏エコとのアンケート併せて出前授業の希望調査を行い、希望した学校を訪問し、学校側の希望と出前授業の内容の詳細打ち合わせを行い、日程を決めて、省エネグループの「エコたのしみ隊」メンバーが中心となり行った。また学校によっては「エコ座」、「ソーラーチーム」、「グリーンコンシューマーグループ」と共同で、省エネ体験を受け持って行った。実施校は、市内の小学校8校、神奈川県出前授業登録制度により県立及び私立の中学・高校が2校の計10校で、受講した児童、生徒は1,000人以上、総講義時間は24時間以上になった。

小学校に対しては、講座終了後に受講した児童を対象にアンケートを実施した。アンケートの結果を分析し、その報告に学校を訪問して、先生方に次年度も出前授業の依頼につながるようにフォローアップを行った。アンケートから受講した児童・生徒の省エネに対する意識が高まっていることが伺え、環境に取り組む重要性への意識改革の一助になっていることが実感できた。また今年度は川崎市生涯学習財団の環境教育リーダー育成講座の修了生も当グループで活動していることから、学校への声掛けやルート紹介等を連携して行うことでより多くの学校と接触できるようにした。

2. 4 イベント

市内各地で行われたイベントに参加し、地球温暖化の防止・省エネ意識の普及を訴える活動は、新しく「いいじゃん川崎」への出展も加わり、8回に上った。

川崎市内各地域のイベントに出展し節電・省エネの啓発活動を行った。

富士通春祭り（4月4日）、環境デー2010in なかはら（6月13日）、生田緑地サマーミュージアム（7月31日）など



いいじゃん川崎

環境デー2010in なかはら

生田サマーミュージアム

富士通春祭り

項目	日時	場所	実施内容
富士通春祭り	4月5日	中原区	パネル・手回し発電機セット・エコ座

環境デー・イン中原	6月6日	中原区	〃
インターナショナルフェスティバル イン川崎	7月4日	中原区	〃
生田緑地サマーミュージアム	7月31日	多摩区	〃
いいじゃん川崎	10月6日	川崎区	〃
川崎国際環境技術展	2月16・17日	中原区	パネル・手回し発電機セット
13期環境学習アドバイザー講座	9月25日	高津区	省エネグループ活動紹介
エコフェスタ	2月	中原区	パネル展示

2. 5 企画

当初グループ内のスキルアップのため外部の講師を招き講義を受けることを計画したが、協議会の市民部会の連続講座として、グリーンコンシューマーグループと共同で取り組むことになった。当グループは企画チームが中心に「スマートグリッド」の講座を担当した。

講座の内容は 第2回「エネルギーのスマート利用とスマートグリッド」 10月4日 10時から12時 講師：東京電力(株) 神奈川支店 営業部 都市エネルギーソリューショングループマネージャー 矢田部隆さん 会場：中原市民館視聴覚室

3. 2011年度

3. 1 概要

2011年の省エネグループの活動は、川崎市地球温暖化防止活動推進センターの発足に伴い、そのプロジェクトの一つとして活動することになった。また3月11日に発生した東日本大震災により節電・省エネの意識の高まりの中で、普及啓発活動がより重要であるとの認識のもとに、グループ全員が一丸となって活動に取り組んできた。活動の内容は従来からの項目を地道に展開し、拡大することにより市民省エネ意識を高めることを目的にした。

3. 2 夏休みエコライフ・チャレンジ

夏休みエコライフ・チャレンジの活動は昨年と同様に、4月初めに川崎市内の全小学校に対し環境局から校長会ではなしていただき、夏エコ実施希望を問アンケート調査を行った。これまで継続実施校には電話で確認。学校への送付先は実施担当責任者である5年学年主任とした。5月初めに夏エコ実施対象校13校を決定した。5月の会議で夏エコ省エネカレンダーの詳細を決定し6月に配布した。9月から10月にかけて省エネカレンダーを回収し、11月に集計・分析し報告書を作成した。今年の参加者は13校で913名となり、前年は602名だったので1.3倍になった。11月から12月にかけて報告書を持参し2人ペアで学校を訪問し内容を説明した。

3. 3 出前授業

出前授業による省エネの啓発活動は市内の全小学校に対し4月、5月2回わたって、出前授業希望の有無のアンケート調査を実施した。このアンケートは省エネグループが原案を作成したが、地球温暖化防止活動推進センター発足に伴い、他グループも含めたプログラムと

して行った。「希望する」の回答を得た学校の学年主任と事前打ち合わせをし、学校側の希望を加味した授業内容で実施してきた。

今年度は、東日本大震災後の経験から「節電」の授業を希望する学校が増えると予想して新たに「節電にみんなで取り組もう」のプログラムも準備し、「地球温暖化とは一見て、触れて、感じてー」「葉っぱはえらい」の3つのプログラムから、学校の希望するもので実施してきた。その結果、今年は、希望校が今年の8校に比べ飛躍的に増えた。授業はクラスごとに行った。実施した学校の数は、市内全校の17%の19校、クラス数は65クラス、児童数は2,645人となった。4つの学校では「温暖化」と「節電」の両プログラムを希望され、90分授業も行った。尚2年連続で希望した学校は4校と少なかったのは残念だった。

授業終了後には、全児童にアンケートを実施し、集計して学校へ報告した。アンケートには「わかりやすい授業だった」「よく分かったので自分も節電に取り組んでみたい」など前向きな言葉がたくさん寄せられた。また質問も多数寄せられ、1件ごとに回答を作成し、先生方からは感謝され、充実した出前授業ができたと感じている。質問への回答の作成は労力を要するが、このような地道な活動を積み重ねることによって、省エネグループへの信頼が高まり次年度以降の継続につながるものと信じて継続していきたい。

講座の希望の時期的な課題が残った。それは、夏休み前の7月、冬休み前の12月に集中したことで、年間を通して分散化が図れるかを考えたい。

3. 4 イベント

市内各所でおこなわれたイベントへの参加も9回に上った。今年新規に「登戸民家園通り商店街」「海風の森をMAZU つくる会」があった。

尚、川崎国際環境技術展では展示ではなく、ツアーガイドとして参加した。

川崎市各地で開催の9件のイベントに出展し、ブースを訪れた市民1,210人以上に対して、節電・省エネの大切さを理解してもらおう啓発活動を行った。

2011年度イベント開催への参加リスト

主催	中原区役所	国際交流センター	登戸民家園通り商店街	生田緑地公園	海風の森をMAZUつくる会	川崎区役所	川崎市環境局	いいじゃん川崎実行委員会	川崎市国際環境技術展実行委員会	備考
イベント名	第1回中原区エコカフェ	2011インターナショナル・フェスティバル in カワサキ	登戸民家園通り商店街夏祭り	生田緑地サマーミュージアム	海風の森公園	エコ暮らしフェスタ	CC等々力エコ暮らしフェア (第2回中原区エコカフェと同時開催)	第19回いいじゃん川崎	川崎国際環境技術展2012	
開催日	6月5日(日)	7月3日(日)	7月23日(土)	8月7日(日)	8月14日(日)	8月28日(日)	9月24日(土)	10月15日(土)	2月11日(土)	
場所	川崎市ミュージアム前	国際交流センター	登戸民家園通り商店街	生田緑地公園	海風の森公園	川崎市教育文化会館	等々力緑地公園	東田公園	とどろきアリーナ	
出展内容	①手回し発電機の体験 ②節電のPR掲示	手回し発電体験	手回し発電体験	手回し発電体験	葉っぱはえらい	手回し発電体験	手回し発電機等の体験 +節電のPR掲示	手回し発電体験	「CCかわさき」エコ暮らし"ツアー"のガイド	
ブース来場者数	180人	120人	70人	110人	70人	80人	210人	370人	未定	合計 1,210人以上



中原エコカフェ



国際交流センター



いいじゃん川崎



川崎国際環境技術展

3. 5 企画

企画チームの活動は活動センター発足の連携行事として「夏の省エネ 7～8 月」「冬の省エネ 2012 年 1 月」の展示に協力した。JACCA 訪問、エコプロダクツ展見学をはじめとする各種環境展への見学を通じて、メンバーのスキルアップを図った。定例会ではメンバーの佐藤（万）氏による CO2 排出量や燃料消費量の計算方法の勉強をした。今後の方向性を探るため議論をしたり、地球環境室からの話を 2 回にわたり聞くなどして、現状の環境問題について認識を深めた。外部講師として初めて（株）アドバンテックの保坂氏より LED/太陽電池の仕組みについて講演をしていただいた。11 月には専修大学情報学部綿貫教授のゼミ生に対し、省エネグループの活動を紹介した。それを通じて南百合丘小学校の「ハートフルステージ南百合」に連携参加をしていただき小学校からも大変感謝された。

4. 2012 年度

4. 1 概要

4. 2 夏休みエコライフ・チャレンジ

夏休みエコライフ・チャレンジは今年も昨年同様に行った。スケジュールもほぼ同じで、3 月に夏エコチーム会議でアンケート内容を決定した。4 月に市内全小学校（113 校）への参加依頼書とアンケートを配布（出前授業と合同で）した。これまで継続している学校へは個別に電話をした。5 月参加希望校 16 校を決定した。夏エコシートの詳細内容を検討し原案を作成し定例会で決定した。6 月に省エネカレンダー、記入マニュアル等を発送した。

9 月～10 月に回収した。参加校は 12 校 958 人となった。10～11 月学校別集計、12 月全校集計をして、集計できた学校から手分けして報告に伺った。

4. 3 出前授業

出前授業は市内の小学校 5 年生に対して、4 月、5 月および 9 月と 3 回にわたって、センターのメニューにより出前授業希望の有無のアンケート調査を行った。113 校のうち 55 校がアンケートに回答、回答率は 49%で、そのうち希望があったのは 30 校で、省エネグループを指定してきた学校は延べ 25 校に上った。今年度新たに追加した「エネルギーってなあに？」を含めて 4 つのプログラムから学校が選んだプログラムに、学校側が希望する内容を加味した授業を実施した。後半からは「環境ゲームで学ぶストップ!!温暖化」の環境学習プログラムについてセンターに協力して、2 校で実施した。授業を受けた児童の数は 25 校、80 クラス（80 回の授業）、2307 名となった。これは市内全校の 22%にあたる。昨年度は 19 校、65 回、2645 人が受講したので確実に実施校は増えている。

実施した学校の先生からは「満足」と「感謝」のコメントが得られている。児童のアンケートからも、説明がわかりやすくよかったとか、発電体験も好評であったことが伺えた。子どもたちの質問への回答書も先生を通じてフィードバックされており、その後の環境教育に役立っているとの実感を得ている。

出前授業の成果として、御幸小学校の地域副読本に授業の様子が掲載された。また川崎市生涯学習財団の定期情報誌「ステージアップ」にも出前授業が取り上げられた。一方下作延部小学校の文化祭の学習発表会、6 年生の未来にはばたく会の発表会、卒業式、2013 年度入学式への招待も受け、着実に省エネグループへの信頼と期待が広がっていることを実感した。

活動センターのコンソーシアム事業である、自治会、町内会に対する「節電・省エネ学習会」の企画を省エネグループで対応した。実施した自治会・町内会は 14 か所で参加者は延べ 500 人を超えた。

4. 4 スマートライフスタイル大賞の受賞と低炭素杯（全国大会）への出場

(1) スマートライフスタイル大賞の受賞

川崎市が、従来の低CO₂かわさきブランドでのハード優先を改めソフト面での活動も評価するため、今年度新設した「第1回スマートライフスタイル大賞」に応募して、晴れある大賞に選出され、11月22日の授賞式で市長より賞状を授与された。

(2) 低炭素杯 2013 に出場

『全国地球温暖化防止活動』推進センター主催の「低炭素杯 2013」に応募した。全国から1371 団体が応募した中でファイナリスト 40 団体に選出された。2月16日

4. 5 イベント

川崎市各地で開催の10件のイベントに出展し、ブースに訪れた市民1,750人以上に対して、節電・省エネの大切さを理解してもらう啓発活動を行った。

川崎国際環境技術展ではミニ講座を行うことによって省エネによる地球温暖化防止を広くPRすることができた。

2012年度イベント開催への出展リスト

主催	富士通川崎工場	国際交流センター	生田緑地公園	地球環境推進室	多摩区役所 企画課	中原区役所 企画課	いいじゃん川崎実行 委員会
イベント名	富士通春祭り2012	2012インターナショナル・フェスティバル in カワサキ	生田緑地サマーミュージアム	エコ暮らし未来館環境教室	夏休み・たまエコフェスタ	第2回中原区エコカフェ	第20回いいじゃん川崎
開催日	4月1日(日)	7月1日(日)	8月5日(日)	8月18日(土)	8月23日(木)	8月26日(日)	10月20日(土)
開催時間	10:00~15:00	10:00~16:30	10:00~15:00	10:00~15:00	11:30~12:30 (10:00~15:00)	10:00~15:00	10:00~17:00
場 所	富士通川崎工場	国際交流センター	生田緑地公園	エコ暮らし未来館	多摩区役所	中原区役所	東田公園内 さくら会館
出展内容	手回し発電体験+節電啓発	手回し発電体験	手回し発電体験	手回し発電体験+節電啓発	手回し発電体験+節電啓発	手回し発電体験+節電啓発	手回し発電体験
ブース来訪者数	300人強	500人	250人強	70人強	60人強	50人弱	300人強

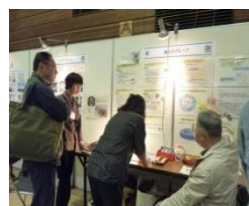
主催	幸区役所 企画課	お日さまプロジェクト	川崎市	ブース来場者合計
イベント名	幸区子ども環境展	自然エネルギーで遊ぼう	川崎市国際環境技術展2013	
開催日	10月28日(日)	11月18日(日)	2月3日(日)	
開催時間	10:00~16:00	10:30~14:30	12:00~12:20 13:30~13:50	
場 所	幸スポーツセンター	子ども夢パーク	等々力アリーナ	
出展内容	手回し発電機等の体験+節電のPR掲示	手回し発電体験	「地球温暖化とは」のミニ講座 2回開催	
ブース来訪者数	50人弱	120人	50人弱	1750人以上



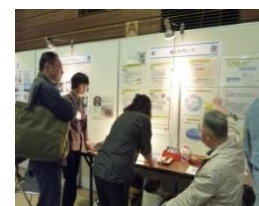
富士通春祭り




生田緑地サマーミュージアム



幸区子ども環境展



エコ暮らし未来館環境教室



4. 6 企画

メンバーのスキルアップと省エネグループの今後の方向を見つけ出すための活動を企画チームは行った。外部講師による勉強会は日置電機の三井課長に「企業が取り組む節電」と題して講演をしていただいた。また環境調整課の須賀主任に「川崎市環境基本計画」を中心に講義をしていただいた。センター主催の夏休み自由研究において、省エネグループはレモン電池の講座を実施した。自主勉強会として「省エネグループ規約」づくりと「省エネグループの今後の方向性」についてのアンケートを実施した。今後の方向性は数回話し合いをしたが、結論はまだ得ていない。

4. 7 広報

ホームページ（ブログ）による活動内容の紹介をおこなってきたが、更新等になかなか手が回らず滞った。イベント用に省エネグループののぼり旗も作成した。

学校に対しては普段の活動をこまめに紹介し、継続性をアピールしていくことも今後検討していく。